

# 効率的ESD設計システム (SEED\* = 種蒔き) で 失敗の少ない収穫を

MART COENEN  
Owner  
EMCMCC

長年、国内および国際的な標準や規格は、デバイスと製品の設計と製造過程をより簡単にするために確立されたり、少なくとも制限内で規定されたりしてきた。ほとんどの場合、標準と規格自体のライフサイクルプロセスさえある。古いものは次第に消えていき、新しいものは広く使われているが、新しい見識に反証されたものの恒久的に残存しているものもある。標準化プロセスにより、参照と安定性が生まれたり、長期にわたる貿易障壁が生じたりする。試験機器メーカーや試験所、試験業界は、国際規格の開発、試験機器の開発、確立済の標準や規格に従わねばならない製品や機器に関するすべての要求を持つ付随的な制約に関する投資に対し、経済的利益を望んでいる。

注:

\*SEED: SEED: “System-Efficient ESD Design”

## 要約

**設** 計変更の要求は、エレクトロニクス産業では製品やデバイスの開発に大きな影響を及ぼす。だが、標準化が遅れたために、エンドユーザーの現場で起こっている問題に、提示される要求がもはや適さなくなってしまうら、どうなるだろうか。確かに、製品や機器に対しておこなわれる変更や提示などの要求はすべて、選択した製造工程や、設計努力、検証方法、エンドユーザー環境（ほとんど変更は不可能なので最終的なエンドユーザー要求として採用しなければならない）に至る一連の開発に伴う他のあらゆる要求事項に、影響を及ぼす。

効率的 ESD 設計システム (SEED: System-Efficient ESD Design, 「ESDA\* WhiteBook 3」参照) では、エンドユーザー環境に合わせるためナノスケールデバイス